



四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



シロバナタンポポ



セイヨウタンポポ



カンサイタンポポ

- 学名 : *Taraxacum japonicum*
- 生薬名 : 蒲公英、蒲公英根
- 薬用部位 : 全草、根
- 薬効 : 解熱、健胃、消炎、催乳



春になるといち早く開花するタンポポ。開花が終わると花を閉じ、いったん花茎を横に寝させて種子が熟すのを待ちます。熟すと急激に起き上がり、以前よりも長く伸びて風に当たりやすくして、ふわふわの白い綿毛がついた

タネ(上図)を春風に乗せて次々に飛ばします。誰でも子供の頃、この綿毛を吹いて遊んだことがあるでしょう。日本には約20種のタンポポが自生していて、カンサイタンポポ、カントウタンポポ、花の白いシロバナタンポポなどがあります。外来種のセイヨウタンポポは、繁殖力が強く、冬でも花を咲かせます。

「タンポポ」の名は、円盤状の頭花を鼓に見立てて、鼓を打つ時の“タン・ポン・ポン”という音に由来するという説があります。英語名の

「dandelion(ダンデライオン)」は、フランス語が語源の“ライオンの歯”の意で、独特のキザキザした葉をたとえたものです。

タンポポの全草や根は古くから身近な薬として利用されてきました。民間薬として胃痛や消化促進、お乳の出が悪いときなどに煎じて服用



蒲公英根

されます。中国では発熱、炎症、利尿、解毒、急性乳腺炎、できもの、目の充血などに服用されています。さらに、近年では虫垂炎など内臓の化膿性疾患や結膜炎など眼病の感染性疾患にも応用範囲を広げています。

また、野菜としての利用も古くから知られていて、若葉はおひたし、和え物、天ぷら、サラダにして食べられます。少し甘苦く、胃もたれによいといわれています。

